

”日曜工作“ 空き箱で お菓子の

読者のみなさんからのリクエストにお応えて
今回は、パパの登場です！
「いつもは外遊び担当」というおとうさんたちも
たまには家で、子どもとじっくりモノ作りをしてみませんか。
お互いひと味違った表情に出会うかもしれませんよ。



拓さん、みどりさんの「観覧車」を動かしてみる響くん。机の中央にあるのはきょうだい合作の「海の家」です。先生(左端)が作ってくれたダンボールの建物に、看板やメニューに見立てたロゴやイラストを装飾しました。



- ① 完成間近の拓さんは余裕の笑顔。みどりさん曰く、拓さんは「腰は重いけどやり始めると熱中するタイプ」だとか。きっとお家に帰ってからもおもしろい作品を作ってくれることでしょう。
- ② Gondolaを作るみどりさん。「ママ頑張ってる」と奏音ちゃんが応援します。
- ③ 「ペンチやテールなど立体的なものを作ってみるのもいいね」と先生。その後響くんは動物の絵柄を人の顔に見立てて、「海の家に来たお客さん」を制作。思いもよらない発想に脱帽でした。
- ④ 2人とも真剣そのもの。その様子に、拓さんとみどりさんは「意外な一面」と驚いていました。「奏音は響がやることを全部まねて自分でやろうとするんです」と拓さん。なるほどはさみも上手なはず。
- ⑤ プレークタイムのお菓子もおいしかったね。

空き箱から広がる創造の世界



空き箱は全く違った姿に変わっているのに何の箱かわかる、これが先生の「パッケージクラフト」です。さらに、つまみを引っ張ると舌が出たり、頭を動かすとしっぽも動いたり、子どもが喜びそうな作品がいっぱい。響くんと奏音ちゃんはどんなしかけがあるのか興味津々です。

子どもの心をキュッとつかむ
パッケージクラフト



先生がプレゼントしてくれた帽子をかぶってご満悦のきょうだい。響くんは「明日保育園にかぶって行く！」とかなり気に入った様子。奏音ちゃんもとっても似合ってますね。緑の帽子はブルボンの「シルベヌ宇治抹茶」、赤は「フランスバター」の空き箱で作られています。



富田 美和 (左端)
(有) コラボレーションマル所属。
仙台にて長年広告制作やテレビ番組における
スタイリングを数多く手掛ける。
右からみどりさん、高橋先生、拓さん。前列は右が
響くん、左が奏音ちゃん。高橋先生が新潟市内で
定期的にワークショップを開いていることを知った
みどりさんは「今度ぜひ参加します!」と話してい
ました。



日曜大工ならぬ「日曜工作」。今回は、休日のパパが家族の人気者になれそうな工作を紹介します。ゴロ寝やテレビの時間をちょっと減らして子どもと向き合うパパは、子どもだけでなくママの目にもカッコよく映るかもしれませんね。とっておきの工作を教えてください。たのはパッケージクラフト作家の高橋和真先生。「今日はブルボンのお菓子『セブール』シリーズの空き箱で工作します。箱のデザインを活かして観覧車を作りましょう」と先生。子どもの頃、色紙を張った空き箱で工作したことはありませんが、デザインを活かして使うなんて初めてです。一体どんな作品が仕上がるのでしょうか。体験読者として新潟市から参加してくれたのは倉嶋さん一家。先生のアドバイスのもと、ご主人の拓さんが中心となって空き箱から部品を切っていきます。高橋先生は響くんと奏音ちゃんに「イラストやロゴなどを自由に切り抜いてみましょう」というような空き箱をたくさん並べてくれました。観覧車部品を組み立てていくと…観覧

車の中央には、ロゴとクッキーの写真でできた看板が掲げられました。個包装になっていたお菓子の袋は Gondola に変身。柱のロゴや文字は見事に飾りになっています。「これ乗ったことあるー」と歓声をあげたのは響くん。空き箱から切り取ったうさぎを Gondola に乗せると、その重みで観覧車はクルリと動きました。みどりさんは「いつもはゴミ箱行きの空き箱がこんなに素敵なおもちゃに変身するなんて！今度から捨てる前に工作したいです」と話してくれました。

「この工作は完成度の高さより、何をどう見立てるかが大切。同じ箱でも作る人によって全く違う作品になるからおもしろいですよ」と高橋先生。子どもたちはきつと、箱を眺めながら思い描いたイメージを、自由な発想で形にしているでしょう。

間もなく夏休みがやってきます。出かけた先で見たもの、体験したことなどをテーマに空き箱で立体絵日記を作ってみてはいかがでしょうか。おやつを食べて工作も楽しむなんて、一箱で二度おいしい思い出となりそうです。